機電技術者意見交換会報告書

(第20回)

実施日: 2016年10月13日(木)~14日(金)

2017年1月

一般社団法人 日本建設機械施工協会 建設業部会 機電技術者交流企画WG

2016 年度 建設業部会 機電技術者交流企画WG名簿

	役 名	氏 名	会 社 名	所属部署・役職
1	主査(三役)	落合 博幸	三井住友建設(株)	土木本部 機電部長
2	委員	岩野健	清水建設(株)	土木技術本部 開発機械部 課長
3	委員	田村信幸	(株)奥村組	東日本支社機械部·機械部長
4	委員	木村 政俊	大成建設(株)	土木本部 機械部長
5	委員	奥澤昌	前田道路(株)	工事事業本部機械部 部長
6	委員	相田 尚	(株)NIPPO	総合技術部 生産機械センター 機械開発課長
7	委員	小崎 正弘	五洋建設(株)	土木本部 船舶機械部長
8	委員	高村 勝之進	大豊建設(株)	土木本部 土木部 機電課長
9	委員	掛川 敏弘	鉄建建設(株)	土木本部 土木営業部
10	委員	渋谷 光男	(株)フジタ	建設本部土木エンジニアリングセンター 機械部 部長
11	市 数巳	岡田 和夫	(対) 口大冲弧燃流流工协会	業務部長
12	事務局	松本 寛子	(一社)日本建設機械施工協会	業務部 主任

一般社団法人 日本建設機械施工協会 建設業部会 第 20 回 機電技術者意見交換会

目 次

1.	第 2	0 回	機電技術者意見交換会	報 告	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	_	5
2.	グル	ノ ープ i	討議結果										•	•		6	_	10
3.	アン	ケー	卜集計結果								•		•	•		11	_	23
4 .	資	料																
1)意	見交	換会実施要領およびスケ	ジュール										•		24	_	27
2	2)参	∮加者:	名簿											•		28	_	30
3	3)実	施状	況写真													31	_	35
Δ	」) 新	·間掲	載記事													36		

1. 第 20 回 機電技術者意見交換会報告

(1)背景

機電技術者意見交換会は平成9年から実施されており、今回で20回目となる。 これまで、参加者からは「同業他社との交流が有意義だった」「他社の機電社員も同様の問題を 抱えていることが解った」等、意見交換会に対して好意的な発言が多く述べられてきたことから、 それらを踏まえるとともに、時流に沿った討議テーマを選定し、継続してきた。

第 16 回 (平成 24 年) からは、建設業部会の中に「機電技術者交流企画WG」を設置し、開催意義を再検討するとともに、機電技術者のさらなる育成交流に資する活動として、討議テーマ、グループ編成、講演内容および PR 活動等の検討を行っている。

昨年開催された第 19 回では、「より多くの参加者との意見交換の要望」に対応して、 グループ討議の班編成を 2 回シャッフルして討議を行った結果、好評であったことから、 今年度も班編成のシャッフル回数については継続して、2 回実施した。

第 20 回目の開催にあたっては、昨年の第 19 回参加者のアンケート結果を下に、

- ① 時流に沿った、より有意義な討議テーマの選定
- ② 講演内容
- ③ 討議成果発表方法の工夫
- ④ 自己プレゼン方法の改善
- ⑤ アンケート集計方法
- ⑥ 参加会社の拡大
- ⑦ 機電技術者の PR 方法

等について重点的に討議を重ね、実施要領を決定した。

また、多くの機電技術者の参加を促すために、参加者募集に関しては、引き続き建設会社協会会員のグループ会社の社員も含めることとした。

さらに、継続学習制度(CPDS)の学習プログラムに登録し、単位取得の対象講習会とすることで参加しやすい環境を整えた。

(2) 部会長挨拶 : 建設業部会 部会長 佐藤康博

日本建設機械施工協会の目的と建設業部会の活動および機電技術者意見交換会の目的について 説明をいただくとともに、「この2日間を有意義な会として機械電気系の将来を明るく前進 させていくことを期待する」と述べられた。

(3) グループ討議

【討議テーマ】 「魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果す役割について」というテーマのもとに、参加者 22 名を 5 班(工種別:土木系 2 班、海洋土木系 1 班、建築系 1 班、道路系 1 班)にグループ分けし、討議を実施した。

討議は上記の工種別グループを基本として行い、成果発表は班ごとに行う方法とした。

なお、昨年実施した班編成メンバーを2回入れ替えるシャッフル方式が好評であったことから、1日目 1.5 時間、2日目 1.0 時間のシャッフル時間を取り入れた。

シャッフル内容は、1日目は平均年齢が各班同一となるような構成、2日目は年齢が同世代となるような構成として、いずれも工種が重ならないように配慮した。

(4)講演

今回は、1時間の枠で2講演を頂いた。

① 演 題 : 「i-Construction について」

講 師 : 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 施工安全企画室

課長補佐 近藤弘嗣 様

国土交通省が提唱している i-Construction。

ICT の全面的な活用 (ICT 土工) 等の施策を建設現場に導入することによって、 建設生産システム全体の生産性向上を図り、もって魅力ある建設現場を目指す取組について 講演していただいた。

「i-Construction 施策により企業の経営環境が改善されるとともに、賃金のアップも図られる。本日、参加している皆さんには将来を見据えた創造的な業務を行ってもらいたい。」との言葉をいただいた。

② 演題: 「A4CSEL(クワッドアクセル生産システム)とは」

講師: 鹿島建設株式会社

プリンシパル リサーチャー 三浦悟 様

労働生産性の向上を目的として開発された建設機械の自動化による次世代の 建設生産システムについて講演していただいた。

実工事で運用していることも有り、参加者からは多数の質問が寄せられた。

(5)討議成果発表

2日目の講演の後に、グループ討議の成果を各班の代表から発表してもらった。 また、2年前から実施している参加者全員が発言するという機電技術者交流企画WGの基本方針に 基づき、参加者一人ひとりに討議内容および意見交換会へ参加した感想等について発表してもらう 時間を設けた。

(6)講評者意見

討議成果発表に対して、各社の上司である管理職の方々から全体を通した講評を頂いたので、 抜粋を以下に示す。

- ・皆さん、非常に真剣に討議していただき、ありがたく感じます。 建設業の中の機電技術者認知度向上策についても「ゆるきゃら」「建設機械カード」など アイデアがすばらしく、機電職の将来への不安がなくなりました。 将来の活躍を期待しています。
- ・すばらしい発表をありがとうございます。よく討議されていると思います。 今後は、AI, IoT 等でますます皆さんの役割が重要となります。 今日の気持ちを継続してスキルアップに励んでいただきたいと思います。
- ・皆さんは、今、将来に向けていろいろ考えていることと思います。ただ、何日か経ってしまうとその気持ちがだんだん薄れていきます。今の気持ちを忘れないでください。今感じている気持ちを継続して業務に励むとともに、後輩の指導にも励んでください。
- ・トンネルの施工などは私の入社したときに比べると飛躍的に進歩しています。 時代はどんどん変わり、進化していきます。 皆さんの発想に期待します。10年先20年先を見て仕事をしていって欲しい。 また、今回の仲間を大事にしてください。

(6) まとめ

1)アンケート解析結果

① テーマ、進め方、発表方法、交流について

テーマについては「適当・良かった:77%」「まあまあであった:23%」「不満・改善を要す:0%」という回答であり、 機電技術者として話し合いたいテーマであったと考える。

ただ、「サブテーマ的なものが欲しい」「複数のテーマからの選択方式」「具体的な成果を出せるテーマ」等の要望も 多く、今後の検討課題としたい。

また、シャッフルしてもテーマが同じだと話が同じ内容になってしまうという意見が多数あり、次回は「シャッフル時の別テーマの設定」なども検討したい。

進め方については「適当・良かった:55%」「まあまあであった:45%」「不満・改善を要す:0%」という回答であり、 大きな問題は無かったと考える。

ただ、グループ討議のスムーズな進行のために、「リーダー役の事前決定」「自己紹介資料の事前配布」「開始時の指南役が必要」という意見もあり、次年度の参考にしたい。

発表方法については、「適当・良かった:82%」、「まあまあであった:9%」、「不満・改善を要す:9%」という 回答を得た。討議を全員で有意義に行うことを目的に、パワーポイントを使用せず、第17回よりホワイトボードの 写真撮影対応としている。この方法については、「斬新で討議に集中することが出来た」という意見があり、 90%程度の満足は得ているが「時代禁調」「パワーポイントの方が手書きたりも解りやすく伝えられる。第の意見もあり

90%程度の満足は得ているが、「時代錯誤」「パワーポイントの方が手書きよりも解りやすく伝えられる」等の意見もあり、 0Aの飛躍的進歩とパワーポイントの常用化も含めて、再検討の時期が来ていると考えられる。

本会の主目的でもある機電技術者の交流についてであるが、シャッフルの時間については「現行時間が妥当:91%」 「時間を短縮すべき:5%」「時間を延長すべき:4%」という回答で、概ね満足している。

班編成については、成果発表班は「工種別のため話を進めやすかった」という意見が多かったことから、 今後も成果発表班の構成は現状方式を継続すべきと考える。

交流範囲の拡大を目的としたシャッフルについては「他分野の人間との交流が有意義であった」という意見が多く、 今後も実施していきたい。

シャッフル内容についても現行の「同一平均年齢」「同世代」方式が望ましいという意見を多数聞けた。

②参加者、場所、期間について

参加者に関しては「適当・良かった:91%」「まあまあであった:9%」「不満・改善を要す:0%」という回答結果であった。その他意見欄に「リース会社、機械メーカー、サブコン」との意見交換を望む意見が何名かからあったが、あまりに広げすぎるとまとまりが無くなる等の懸念もあり、今後の検討課題である。

場所に関しては「適当・良かった:82%」「まあまあであった:9%」「不満・改善を要す:9%」という回答結果であった。改善要望としては、意見欄から「宿泊施設が古い」ということと予想される。

宿泊施設(D棟)は平成7年からの運用ということから20年以上経過しており、設備的には不満があると思われる。 ただし、会場とのアクセスおよび経費的なことを考慮すると、現行方式を継続すべきと考える。

今後、計画的に設備更新を行うということをセンターから聞いているが、D棟の更新時期は未定である。

申込時に宿泊施設の現況を紹介し、場合によっては個人での手配も可能とする方式も検討すべきと思われる。

期間、集合時刻については概ね適当という回答であったが、遠方(関西方面)からの参加者は午後からの開催を希望している。午後からの開催とした場合は、午前中の会場使用料の削減効果があることからオリエンテーション資料の事前配布等で効率化を図り、午後からの開催も検討の余地はある。

時期に関しては、概ね現状で良いようだが、5月の連休明けから6,7月頃を望む声もある。

各社、各人の事情もあるのだろうが、施工管理技士試験時期および気候等を考えた場合、現状 10 月がベストと思われる。 業務上の支障については、ほとんどが事前調整でき、支障はなかったという意見ではあるが、支障が出たという意見も あることから、通知時期の更なる早期化等を検討したい。

③参加した感想

感想欄の回答は「有意義であった:95%」「まあまあであった:5%」「不満・改善を要す:0%」という回答を得たことから交流会は成功と考えたい。

主な意見として「刺激を受けた」「他社の人間の意見が聞けて有意義であった」「モチベーションアップにつながった」 「横のつながりが出来た」「同じ機電職として本音で話ができた」等があり、今後も意見交換会を継続する必要が あることを再認識した。

4講演について

「有意義であった:82%」「まあまあであった:9%」「不満・改善を要す:9%」という回答であった。 改善事項というのは意見欄から時間的なことと予想される。もう少し時間を長くとって欲しいという意見が多数あり、 検討課題である。昨年から2講演の実施を試みたが、やはり、30分では短いようである。

講演時間の延長および資料の事前配布等も検討する必要がある。

講演内容については、時流に沿ったICT関連の話題であったことから、不満の声は聞かれなかった。 今後も、機電技術者が興味を持つ話題を提供したい。

⑤今回の意見交換会から得たもの

今回の経験をどのように活用して行くかという問いに対しては、「人脈活用:39%」「情報交換:41%」 「個々のレベルアップ20%」という回答を得ており、各人それぞれ刺激を受け、良い経験となったようだ。 その他の意見としても「若手技術者の教育に生かしたい」「後輩へ参加するように働きかける」という意見があり、 意見交換会の目的である「機電技術者の交流・育成に資する場づくり」は達成したと考える。

2) 今年度の成果

意見交換会へ参加しての感想は、「有意義であった:95%」「まあまあであった:5%」「不満・改善を要す:0%」ということで開催内容について問題は無く、意見交換会の目的である「機電技術者の交流・育成に資する場づくり」は達成したと考える。

講演に関しては、時間が短いという意見は出されたが、時流に沿った内容であり、「有意義であった」「まあまあであった」という回答は90%を超えた。今後も若手技術者が興味を持つ内容を検討していきたい。

昨年問題となった大部屋確保については、通しで予約し、問題は解決された。また、発表機材についても事前確認を 実施したことから問題は無かった。今後も注意点として次担当者に引き継いでいきたい。

3) 次年度への課題

「業務への取組意識が変化したか」という問いに対して、「大いに変化した」という回答は41%であったことから、もう少し刺激的で斬新な手法も検討する余地があるのではないかとも考える。次年度の検討課題としたい。

討議テーマについては、テーマ自体は問題無いが、シャッフル時に同一テーマだと同じ話の繰り返しになるため、次年度は「シャッフル時の別テーマ」についても検討していきたい。

また、発表方法については、パワーポイントの使用について再検討すべきと考える。ある程度フォーマットを決めておき、資料作成に時間を取られない方式等を考えていきたい。

講演会の時間については参加者から多数の意見が出たように、個人的にもちょっと短いと感じた。

1講演に戻すか、または、2講演で90分程度の時間配分とすることが必要と思える。

新聞掲載については、昨年同様、業界紙3社に取材依頼をし、2社に掲載していただいた。

今後も取材依頼は継続するとともに、「記事にしやすい内容、方策」を検討し、協会の活動をアピールして行きたい。

2016年10月14日 作成日

班	1 到王	記録者 野口	時 男
打合日	2016年10月13日~14日	場 所 国立オリンピッ	ク記念青少年総合センター
出席者	亀井 寛功 : (株 富井 啓輔 : (株) 大林組) 奥村組) 安藤・間 建設(株)	

テーマ「鬼まかある建設業にするために機電技術者が今果す役割について」

- 。現状課題
 - . 3K(きつい、汚い、危険)
 - 給料がかない、場れない
 - 楼械、電気争生 > 建設業

りこクしない記知度が低い知らない

。 対策案 解決案

- ①情報化施工の音及へツルハンからタブレットへ~
 - ・橋電職の活躍
 - ·技術開発
 - ・現場のオートメインョン化 省か省人、遠隔操作
 - ・建設業イメージの変化、改善

・機械・電気学生へのアピールUP

女性の参西(3kg改善)

情報系学生の獲得(ソットケア)

建設業を目指す学生の増加

- ② 建設業(機電)における認知度の低さ
 - ・学生 知ってもらうための付しご戦略(案)
 - 一般人
 - ・ ゆるキャラ(キデンちゃん)
 - JCMA公訊
 - ・子供向けおそちゃ
 - ・砂場向けトンネル重機ニーカー・ニニカー用のトンネルジオラマ・建設業イケメン図鑑(タカラトニーとの共同) 建設カード(ダムカードのような) ・ドリルジャンボ
- ・ 建設施エンミュレーションゲーム
- · TV · CM (トギュナンタリー
 - P=X

まとめ.結論

認知度UP

- ・ 紅が時から連設業を9近に感じてもらう
- .一般人の建設業への理解
- ・楽しみながら中身を知ってそらえる 入社前の基礎知識習得
- ・機械化された建設業を知ってそらえる 過去のイメージの払拭
- 建設業を目指す学生の増加(機需)

あ なわある建設業へ なっていくのでは

作成日 平成28年 10月 21日

班	2	千田 (西松建設)	
打合日	2016年10月13日~14日	場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
出席者	千田 翔互 : 西松園 松村 勇希 : 大豊園	註設 (株) 註設 (株) 註設 (株) 大本組	

〈議事〉

以下に、意見交換会で討議した内容を示す。

テーマ:魅力ある建設業にするために機電技術者が今、果たす役割について

○現状、課題

~機電職員のデフレ化~

現状

①土木職員の便利屋として扱われる

- ・土木職員がトラブルの丸投げ
- ・都合の良い土木職員扱い
- ・機電部署の役割が曖昧

②機電職員の少なさが目立つ

・認知度の低さ

対策

- ①機電職員の立場確立
 - ・土木職員に対する機電研修の実施
 - 機電職業務の明確化 (特殊機械の対応、新技術の開発等)

②機電職のPR

- ・インターンシップの実施(機電職専
- ・機電職の派遣社員の導入(より専門的 知識の活用)
- ・機電職員同士(他社も含めた)の交流の実施(離職防止)

- ○機電職員が果たす役割について
 - ~機電職の価値創造~
 - ①花形現場で活躍する
 - ・多種多様な知識を活かした施工計画を立案する
 - ・幅広い人脈形成(土木・建築共に対応できる立場として)
 - ②機械化技術の応用
 - ・ICT技術による省力化・自動化の促進
 - ・無人化施工による災害地対応

○まとめ

- ~機電職員に求められるもの~
 - ①根性論・経験論からの脱却
 - ・機械技術による合理化を図る
 - ②高いコミュニケーション
 - ・多様な関係者への対応が出来る

作成日 2016 年 10月 16 日

班	3班	記録者	野田 哲義
打合日	2016年10月13日~14日	場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
出席者	草柳 孝義 : 東洋建 野田 哲義 : 五洋建 吉田 一郎 : (株) 渡辺 和宏 : 東急建	設 (株) フジタ	

〈議 事〉

「魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果す役割について」

- ★現状 (それぞれの仕事内容を簡単に説明。)
- ○品質管理・施工管理 ○作業船維持管理 ○作業船改造 ○トンネル・シールド施工フォロー 等々
- ★課題(どのような悩みがあるのか)
 - ・機電職としての地位を上げたい
 - ・なんでもやさんになっている
 - ・スペシャリストになるのか、オールマイティーになるのか?
 - ・所長職になるのが難しい

★対策・解決策

- ・機電職の目線からコストダウンを提案して認めてもらう
- ・土木・建築の知識が必要
- なんでもやさんでいいのでは↓
 - ◎土木・建築の人は電気・機械の事になると分からない事が多い。 だから機電は土木・建築の知識をつけて、プラス機電の事も出来る。 「なんでもやさん」という言い方が悪いだけでは・・・。
- ・工種のスペシャリストになる事で生き残る。 (差別化をはかる)
- ・うれる技術提案をだしていく。

★今果す役割(機電として)

- ・新しい技術を開発する (コストダウンに繋がる)
- ・技術改善をして安全にする ・リニューアル技術・工事に力をいれる
- ・イメージアップ

重機やトンネルカードのようなものを作る 現場見学会を開く←家族に自分の仕事を見せる。

←現場で重機などに触れてもらう

・インパクトのある大型工事をする。

★まとめ

- ・新しい技術を開発や導入に関して、機電の知識は必要
- ・お金の事は重要だが、お金がかかっても新しい技術導入、チャレンジするのは 機電所長がいいのでは。
- ・新しい工法が生まれてくる。←建設業の進歩は機電の技術力が必要。
- ・建設業(機電)の専門学校のようなものを造っては。
- ・業界で技術センターのようなものを造る。

今回の意見交換会で機電とはいえ、他社の方々が思っていた以上に色々な場所で、 違った仕事をしてる事をしり、新鮮な感覚を覚えました。また、現場に戻って仕事を 頑張る活力にもなりました。

以上

作成日

2016年10月14日

班	4班	記録者	近藤 (鹿島)
打合日	2016年10月13日~14日	場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
出席者	田原 修 : (株) 坪内 幸博 : (株) 藤原 俊悟 : 前田	Cテック(7 ウ中工務) 鴻池組 建設工業(7 建設(株)	店 ·

〈議 事〉

メインテーマ『魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果たす役割について』 サブテーマ 「建設業界のイメージアップ」

【現状・課題】

- ○建設系機電職の認知度が低い
- ○若手の離職者が多い
- △3K(キツイ・汚い・危険)
- △労働時間が長い
- □女性技術者が少ない

【対策案・解決案】

- ○インターネット・SNSを利用する
 - →業界外の認知度を上げるために拡散しやすいツールを利用する。
- ○機電系学生のインターンシップを行う。学生向けに協会主催の現場見学会を開催する。
 - →入社前には知らない建設系機電職を体験することで職務に対する不安を軽減させる。
- △建設現場を減らし、生産工場のラインようにする。
- →コンクリート打設のように汚れやすい現場作業を減らし、(プレキャスト)組立作業を増や △ICT・ロボット化を図ることで労働時間を短縮する。
- →写真や動画データによる測量や検査書類の簡素化やロボットの活用による労働者の怪我を防 □職場・施設環境を整える。
 - →女性が働きやすいように職場の施設(トイレ・化粧室など)を整え、清潔に保つ。

【結論】

機電職の認知度向上に向けて日本建設機械施工協会からリクルート向けのパンフレットを作成すパンフレットには興味を持ちやすいようにQRコードを付けて協会ホームページが閲覧できるようする。協会ホームページには、建設機械の動画・女性機電技術者の特集・現場見学会の募集・最先建設機械の紹介などを載せて、より多くの人に閲覧してもらえるようにする。

作成日 2016年10月18日

班	5 班	記録者	横出 喜靖
打合日	2016年10月13日~14日	場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
出席者	立花 洋平(株式会社 N 田ノ上 隼人(東亜道路工 野崎 雄人(日本道路株 横山 鉄哉(鹿島道路株 横出 喜靖(大林道路株	業株式会社 式会社 式会社	中部支店 舗装事業部 生産機械グループ) 工務本部 柴山機械センター) 生産技術本部 機械部) 中部支店 工事部 機械課) 本店 機械部 機械センター)

〈議事〉

テーマ『魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果す役割について』

【現状・課題】

- ・拘束時間が多い(残業・夜間・休日)
- ・建設業界内での機電社員の認知度が低い
- · 3 Kのイメージがまだある
- ・機電社員が少ない
- ・建設業のイメージアップをする機会が少ない
- ・離職率が高い
- ・業界内では女性社員の進出や情報化の普及等でイメージは変わっているが 一般的に認知度が低い

【対策案・解決案】

- ・会社に入る前に機電職向けのインターンをもっと普及して入った後の イメージのギャップを少なくする
- ・ダムカードのような物 (建設機械カード等)を日本建設機械施工協会で作成して 一般的に認知度上げる
- ・業界紙を一般的に普及できるようにする
- ICTを利用したイメージアップを図る
- ・ドキュメンタリー等で機電技術者に特化した番組を制作して貰う
- ・親子で参加できる現場見学会等を増やして子供達に機械を触れて貰い興味をもって貰う

【魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果す役割について】

- ・新しい技術をもっと取り入れた施工を実現していく (自動運転化・ロボット化等)
- ・誇れる仕事をして、社内外にアピールする
- ・機電技術者としての知識向上を図り若手の育成に努める

【まとめ】

子供世代もターゲットに含めたアピールを行い

認知度のアップを図るとともに誇れる仕事をして実績を残して行く

第20回 機電技術者意見交換会 アンケート集計

開催日:2016年10月13日(木)・14日(金)

主 催 者:一般社団法人 日本建設機械施工協会

開催場所:独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ:『魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果す役割について』

参加人数: 22 名

講演:『i-Consutoructionについて』

講師: 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 施工安全企画室 課長補佐

近藤 弘嗣 様

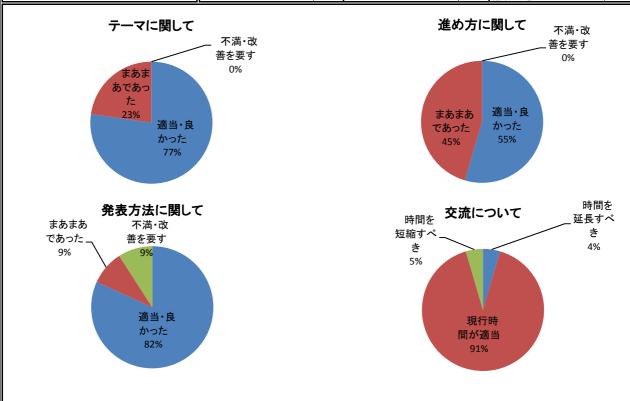
講演:『A4CSEL(クワッドアクセル生産システム)とは』

講師: 鹿島建設株式会社 プリンシパル リサーチャー

三浦 悟 様

1. テーマ、進め方、発表方法について

集計表						
(1)テーマに関して	適当・良かった	17	まあまあであった	5	不満・改善を要す	0
(2) 進め方に関して	適当・良かった	12	まあまあであった	10	不満・改善を要す	0
(3)発表方法に関して (パワーポイントの使用廃止含め)	適当・良かった	18	まあまあであった	2	不満・改善を要す	2
(4)他の班・メンバー変更による 交流について (2回シャフル)	現行より時間 を延長すべき	1	現行時間が適当である		討議内容が浅くなるの で、現行より時間を短 縮すべき	1



次回討議したいテーマ

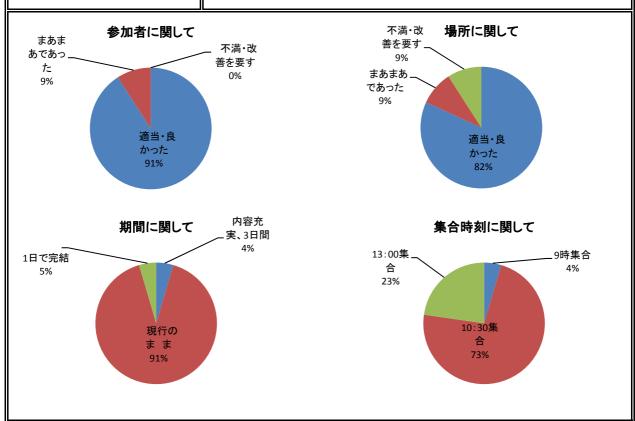
- ・機電技術者が建設業界を発展させるために考えるべきこと
- ・まだまだ建設業、特に機電技術者は少ないので同じ魅力についてのテーマでよいと思う
- ・機電技術者として、今後期待していること
- ・これから入ってくる若い人への教育や対応について
- ・今回と同様のテーマで良いと思います。ただ、もう少し的を絞ってサブテーマ的なものを作ってそれに対して具体的な討議を 行っても良いかと思います。
- ・建設業における、機電技術者の立場向上について
- ・リクルート・人材確保の手法について
- ・機電職として開発したい案件を発表して討議する。
- ・機電技術員の魅力について
- ・『機電技術者が考える震災復興支援又は機電技術者が考える防災』『東京オリンピック!建設系機電技術者が考えるその後の 都市計画』具体的な成果を出せるようなテーマにして後々発表の場を設けるようにしてみては如何でしょうか。
- ・建築・土木分野に必要とされる機電職になるためには
- ・機電技術者の魅力とは
- ・最先端技術について 日本と海外での施工の違い
- ・建設業の機電技術者をどうアピールするか ・建設業における機電技術員のありかた、魅力とは
- ・機電技術者の認知度アップを図る為には
- ・機電社員としての人材育成など
- ・機電技術の認知度向上の為の具体策について

その他自由意見

- ・討議する項目を複数リストアップした内から選択出来るようにした方が討議に入りやすい。
- ・メンバーのシャフルは交流するという意味ではとても良いが、全班が同じ発表内容になってしまうのでは?と思うこともあった。
- ・班をシャッフルしてもテーマが同じだと話が同じ内容になるので、別のテーマにしてほしい。
- ・メンバーを変更してシャッフルしたことで、様々な会社の人と交流できたので良かったです。今後もシャッフルして意見交換 出来る様にしてもらいたいです。
- ・1つのテーマに関して、グループを入れ替えながら討論したので、発表内容が同じ内容になっていたと思います。各班での発表に違いが生れるように、いろいろなテーマについて討論してみたいと感じました。
- ・パワーポイント不採用は斬新で討議に集中することが出来た。
- ・メンバー変更でも討議内容がまったく同じだと、意見が重なったりでなかなか討論が難しかったです。違う意見など聞けて参考になるなどもあるかもしれませんが、それは最後の発表で聞ければ良いと思いました。
- ・パワーポイント (パソコン) を使わないのは時代錯誤。パワーポイントでの発表も立派な技術。勉強のためにも各社の技術を見たかった。シャッフルは多くの参加者の意見を聞けたので非常に良かった。
- ・なるべく多くの方と討議ができることを希望します。
- ・もう少しメンバー変更をして、出来るだけ多くの参加者と交流を持ちたかったです。
- ・パワーポイントにすることで、手書きよりもわかりやすく、皆さんに意見を伝えられると思う。
- ・シャッフルによる交流は大変よかったが、その為に討議内容についての対策案や発表内容に重複する点が多数みられるのでは ?シャッフル時は別なテーマにしてみたらどうか。開始時に指南役(どう討議を進めるか等)がいらっしゃればよかったと思います。
- ・今回討議で導いた結果につきましては、それで終わりではなく、中のいくつかでも、ぜひとも実現してほしいと思いました。中でも、「建設機械カード」は面白いと思いますので、ぜひ実現してほしいと思います。 規格様式さえ決定すれば何とかなりそうですが...

2. 参加者、場所、期間について

集計表						
(1)参加者に関して	適当・良かった	20	まあまあであった	2	不満・改善を要す	0
(2)場所に関して	適当・良かった	18	まあまあであった	2	不満・改善を要す	2
(3) 期間に関して	内容充実を図り、 3日間とすべき	1	現行のままとする	20	1日とし、宿泊をなく すべき	1
(4)集合時刻に関して	9:00集合が望ましい (前々回のの時間)	1	10:30集合 (前回からの設定)	16	13:00集合が望ましい	5
月に関しては9、10月、年度末以外可 曜日に関しては水〜金 木、金 (5)時期に関して 春先か5月の連休明け頃 決算期以外であれば良い 6~7月頃						



あなたが参加するにあたって業務上支障になったことはありますか

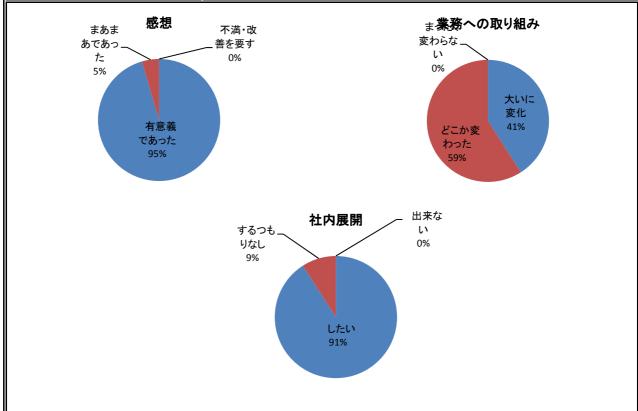
- ・事前に調整で来ていたため、支障はなかった。
- 特に支障はなかった。
- ・現在、担当している現場では機電職員が2人いるので、業務調整出来たため、支障になることは無かったです。1人だったとしても大きなトラブルがなければ業務調整をして、出席可能だと思います。
- ・業務上支障はありませんでした。
- ・告知の時期が早かったため調整することが出来た。
- ・内勤職のため特に支障ありませんでした。
- ・開催時期が、秋だとそれなりに工事の繁盛期ということもあり、開催時期を5月の連休後ぐらいが、適当とおもいます。 それ以外は、開催の告知も早く調整できました。
- ・そこまでこの会への参加が考慮されているわけではなく、二日間分の業務が減るわけでもないため、その分残業・休日出勤せざるおえなくなりました。他の会に出席する場合では気にする所ではありませんが、討論の中で必ずと言っていいほど時間外について出ていたので、そんな討論をしながらそれが時間外の原因になっていることに違和感しか感じません。
- ・2日間拘束されれば帰社した時には業務に遅れがでていたが、参加することも業務。それなりの成果は持ち帰えれたと思う。
- ・部内調整が可能でしたので、特にありません。
- 支障は特にありませんでした。

その他自由意見

- ・講演の時間を増やしてもらいたかった。
- このままで良いと思う。
- ・1泊2日の工程だったので、時間的に短くも長くも無く、丁度良かったと感じました。ただ、遠方より出席でしたので、集合時間を13時にして頂いた方が前乗りすることなく出席できるので、午後からの集合として頂くことも検討願います。
- ・今回の1泊2日での開催が非常に良かったと感じます。それ以上の期間になると、現場で業務させている方々には調整等で大きな負担が掛かってしまうと思います。
- ・二日間開催の場合は、13:00集合が望ましい。一日であれば朝からで良いと思います。
- ・会社を代表して参加しているので参加費を増額してでも宿泊施設は改善したほうが良い。(もしくは各自で宿泊設備を準備)
- ・【個人的な意見】大阪からの参加につき、できれば9:00の集合もしくは、13:00の集合として頂けるとありがたいです。
- ・運営に関しては特に問題はありませんでした。
- ・9:00集合ですと名古屋を始発で出てもギリギリとなる為、前泊を考慮しなければならず、今回が10:30集合でよかったです。

3. 参加して

集計表						
(1) 感想	有意義であった	21	まあまあであった	1	不満・改善を要す	0
(2)この会の参加前後で、業務への取り 組意識は変化しましたか	大いに変化した	9	実感はないが、どこか 変わった	13	まったく変わらない	0
(3)この会で得たことを社内で展開しますか	したい	20	するつもりはない	2	できない	0

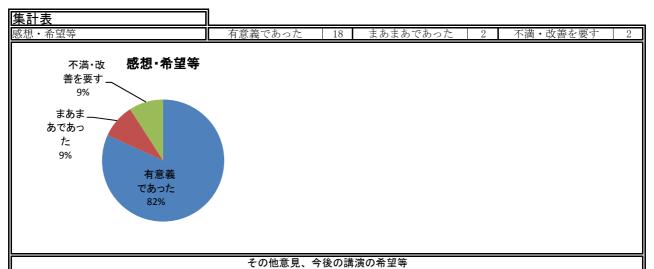


参加しての感想・その他意見

- ・会社、年齢、業種によって、仕事に対する意識に差があったように思う。今回の意見交換会に参加し、いろんな意見や思いを 聞けたことによって、刺激を受けた。
- ・同職種で他社の人の意見が聞けた事は大変有意義だった。
- ・他分野の方の話が聞けた事や、同じ分野の方でも考える事が同じだったり違った話が聞けたのが参考になった。また、同年代でも経験や知識の差を感じる事ができモチベーションアップにつながった。
- 現在、機電としての職務をしているという実感があまりなかったが、他社の機電職の方々と話すことが出来て、今までにはなかった。
- ・他業種や同業他社の方も同じような悩みを抱えていることがわかり、安心する。横のつながりもできるので大変いい企画だと 思う。
- ・この意見交換会に出席して、非常に良かったです。他社の機電技術者との交流は今まで無かったので、新鮮でした。同じ様な 悩みや意見もあり、また、懇親会では助成金も出ましたので、大いに盛り上がり、本音で話しすることが出来ました。
- ・自社より大きな会社の方々のお話を聞け、またお互いの経験等を話し合えたことが非常に勉強になり、また、建設業全体での 機電技術者の育成など、考えを共有できたことが非常に良かったです。
- ・幅広い年齢層で同じ機電職の方と意見交換することが出来き、社内だけでは得られない経験ができた。
- ・最初は抵抗もありましたが、懇親会はやはりよかったと思います。
- ・私自身、JVの現場(スポンサー、サブ)ともに入ったことがなく、他社の方との交流がなっかたので、それだけでも意義があったが、さらに機電職員のみということで、ざっくばらんに話すことが出来た。
- ・他社の機電職の方となかなかお話する機会も無いため、同じような境遇でみなさん悩みながら日々業務に励んでるなどお話で きて良かったです。
- ・業界全体の動向を考える機会は今までなかったが、今回参加することで意識させられた。
- ・同業他社との意見交換ができたことで、社内会議においてブレスト等で、今回得た知見を機電職へ水平展開を図ることができる。同業他社の人脈ができたことは自身にとって大きな財産であり、今回一緒に過ごしたメンバーと意見交換をしていきたいと考えます。
- ・他社の機電職の方と意見交換が出来て大変有意義でした。
- ・社内での機電の地位を上げるべく、資格の習得等に励んでいきたい。
- ・建設業でも他業種(舗装以外)の方々、年代の違う方々との交流してこれまで知りえなかった情報を聞くことができたことがよかったと思う。
- ・さまざまな会社の機電技術者との意見交換会は、私にとっていい経験でした。まだまだ実感はないが変化はあると思います。 各個人には話していきたいと思ってます。

・同じ会社内だと縦割りの組織なのでなかなかざっくばらんな意見を交換するのは難しいが、今回機電職の中でも色々な職種や
- 同し云仙内たと縦割りの組織なのでなかなかさつくはらんな息兄を交換するのは難しいか、写回機電職の中でも色々な職種や - 年齢の人と意見を交わすことが出来て、広い視野がもてたと思います。
・テーマ計議はもちろんですが、それ以外の部分でも同業他社並びに他分野ですが、同じ機械屋という境遇のもの同士の集まり
で、貴重な意見交換ができ、とても有意義な会で、また違った角度での考え方に気づかせてもらえたようにも思いますし、こ
こで得たものは非常に大きいと感じます。事務局の方からも貴重なお話をいただくことができました。このたびの経験はこの
先の自分にとって必ずやプラスに働くものと思われます。ありがとうございました。
The both the second of the sec

4. 講演会について

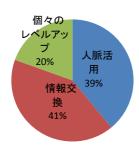


- ドルボクロッチ目の1.5~1~ かけんこと よ
- ・新しい技術や取組みを聞けたことで、勉強になった。
- 時間が短すぎた。
- ・実際のi-Con適用現場担当者のお話が聞きたい。施工業者の様子や国交省の担当者として間近でi-Conを見た感想等。
- ・少し時間が長くても良いのではないかと思う。
- ・国交省の話をもっとききたかったので時間を多くとってほしい。
- ・最新の技術に触れることが出来、内容は新鮮でしたが、当社では開発が難しいのかなとも実感しました。
- ・今後は、「i-construction」に対する、実導入に関する講演等をお聞きしたいです。
- ・ICT最前線に触れることが出来て刺激的であった。
- ・機械の過去から今までの変貌について
- ・討議内容に関する講演があればより討議が盛り上がると思う。
- ・少々時間が短い気がします。(国交省の方の話がもう少し長ければ良かったです。)
- ・講演会の時間をもう少し長くした方が良かったと思います。
- ・最先端の施工でどの様なものがあるか。 (海外での施工方法)
- ・もう少し、時間があってもよかったのではと思います。
- ・機械の自動化が進んでいることに驚きました。
- ・時間が少なく早足での説明になってしまったので、事前に資料等を配布してもらっていたら質問を考えられる時間も合ったのではと思います。
- ・講演会にもう少し時間を充ててもよいのではないでしょうか。

5. 今回の意見交換会から得たもの

集計表

活用について



今回の意見交換会から得たもの・その他意見

- ・自分の会社や部署には無い取り組みや意識を知ることができ、新たな気持ちで業務に取り組むことができる。
- ・今後も情報交換していけたら良いと思う。
- ・今後、後輩達に参加するように働きかけたいと思います(特に現場従事者)。
- ・同班の方々が年も近く、自分よりも現場経験も豊富であり、非常に勉強になりました。そして、同世代に対するライバル意識 も芽生え非常に充実した意見交換会でした。
- ・同年代の機電職の方と話せただけでも非常に有意義であった。
- ・世代ごとの不安や不満の思いを聞くことができ、今後の若手技術者の教育に生かしていきたい。
- ・機電職としての悩みを相談できる仲間(他社)が増えたことは自身にとって非常に大きな宝です。
- ・今後も交流を続けていきたいと思います。
- ・機電職員との横のつながりを大切にしたい。
- ・まだまだ私は未熟だと実感しました。
- ・意識改革、 発想の転換

6. その他意見

- ・普段かかわりのない海洋土木の方との話は興味深いものだった。
- ・他分野の方がどのような業務を行っているか知る事が出来たのは良い勉強になった。
- ・建築や道路の方の話を聞けてよかったです(特に道路会社でのICT活用について等)
- ・グループ別に分かれているので、意見が似たようなものが出てきて良い討論になると思うので、分野別は良いと思う。
- ・せっかくなら今回の3分野だけでなく、もう少し多くの分野の方と意見交換ができればとおもった。(リース会社、機械メーカー、サブコン等)
- ・この意見交換会は継続して頂きたいと思います。また、ゼネコンだけでなく、メーカー等も含めて交流できれば良いと思いま す。懇親会の助成金制度も引き続きお願いしたいと思います。
- ・グループ入替えの際に、分野の違う人といろいろな意見を聞けたと思いますが、班発表などでは同分野でのグループ分けであったため、意見もまとまり易かったと感じます。
- ・グループの担当業務がバラバラであったこともあるが、全員が同じようなことを感じており討議には問題が無かった。
- ・他の分野での実情等を聞けて苦労等分かち合え有意義でした
- ・今回の分け方でも、いいですが、ここに鉄道工事も含めてもらえると、また幅が広がるような気がします。
- ・分野で分かれていて良かったと思います。同じ分野の中でも多少同じ機電職としても社内での立ち位置が違うかもしれないな と思う所もあったので、分野違いでシャッフル班になったときは多少話しにくく、こうなると班として意見をまとめるのが困 難になりそうです。
- ・グループに分かれた時の進行役(リーダ)を事前に決めておいた方が討議を進めやすいと思う。自己紹介の資料は事前もしく は当日に全員分(又はグループ分)を配布するのが良いと思う。
- ・クループ討議するメンバーが同じ業務をしていたので、テーマへの入りが打ち解けやすかった。業種別で行うと、各メンバー の業務内容を知ってからとなるので、本題に入るまでに時間がかなり必要になるかと思う。
- ・班編成が分野別だったので話を進めやすかったです。今後も機電技術者意見交換会以外で他社の機電技術者と交流できる機会 があればいいなと思います。
- ・分野別の方が話がスムーズに進み、良いと思う。また同年代とのシャッフルもあり有意義な意見交換会だった。現行が望ましいと思う。
- ・この会に参加し、他の機電技術者と交流できたことは非常に有意義であったと思います。他社の自分よりも若手の方々と話ができ、自社内の若手や土木系技術員との接し方も変わってくるように感じます。グループ枠については問題ないように思います。同じ業種のグループでしたので、討議内容の方向性が一致するものと思います。シャッフルでの交流もよかったです。 平均化、同年代どちらも有意義でした。
- ・建築・土木・道路と別けたのはよかったと思います。話やすい為です。
- ・ある程度分野別で分かれていると話もしやすいので良かったです。
- ・分野別の班編成はよかったと思いますしシャッフルによって他分野の方々とも意見交換の場があったこともよかったです。 シャッフルの方法についてもよかったと思います。また、グループ別懇親会というシステムはとてもナイスでした。こういう 方法もなかなかいいなと...、そういった意味でもいろんな新しい発見があって面白い体験をさせていただきました。 ありがとうございました。

※ 10年後の自分へのメッセージ

・現場の利益に寄与していますか?
・機電職として頑張っていますか?
・10年も経てば立場が変わっているでしょう。教わる立場から教える立場となり、ちゃんと教えているでしょうか?周りから必
要とされる機電技術者になっていて欲しいものです。資格取得にも励み多くの資格を取得していて欲しいです。
・機電技術者の育成及び、立場の向上を目指して下さい。
・自分自身が培ってきた事を後輩に指導できかつイノベーション革命にのり遅れないようにしていきます。
・10年後の君へ いまどこの何の工種についてますか? 仕事は好きにならなくていいです。ただ誇りとプライドだけは捨てず
に頑張ってください。
・無理をせず、健康第一で。
・建築・土木分野における機電職が無くてはならない職種であり、機電職は常に頼られる存在となっている。
・一人前になっていることを期待してます。

氏名:

1. テーマ、進め方、発表方法について(該当する網掛けに〇を入れてください	١,)				次回討議したいテーマは? ・ その他・意見
(1)テーマに関して	適当・良かった	まあまあであった		不満・改善を要する	次回討議したい	
(2)進め方に関して	適当・良かった	まあまあであった		不満・改善を要する	テーマ	
(3)発表方法に関して (パワーポイントの使用廃止を含め)	適当・良かった	まあまあであった		不満・改善を要する	その他	
(4)他の班・メンバー変更による交 流について(2回シャッフル)	現行より時間を延長すべき	現行時間が適当である		討議内容が浅くなるので、 現行より時間を短縮すべき	自由意見	
2. 参加者、場所、期間について(該当す	- -る網掛けに〇を入れてください。)					参加に当たって生じた調整事項・その他・意見
(1)参加者に関して	適当・良かった	まあまあであった		不満・改善を要する	あなたが参加	
(2)場所に関して	適当・良かった	まあまあであった		不満・改善を要する	するにあたって 業務上支障に なったことはあ	
(3)期間に関して	内容充実を図り、3日間と すべき	現行のままとする		一日とし、宿泊をなくすべき	りますか	
(4)集合時刻に関して	9:00集合が望ましい (前回までの時間)	10:30集合 (今回設定の時間)		13:00集合が望ましい	7 0 114	
(5)時期に関して			月		その他 自由意見	
			曜日			
3. 参加して(該当する網掛けにOを入 れ	れてください。)					左記評価を選択した理由 ・ その他・意見
(1)感想	有意義であった	まあまあであった		不満・改善を要する		
(2)この会の参加前後で、業務への取組意識は変化しましたか	大いに変化した	実感はないが、どこか変 わった。		まったく変わらない		
(3)この会で得たことを社内で展 開しますか	したい	するつもりはない		できない		
4. 講演会について(<mark>該当する網掛けに(</mark>	 ○を入れてください。)					その他・意見、今後の講演の希望等
感想・希望等	有意義であった	まあまあであった		不満・改善を要する		
5. 今回の意見交換会から得たものを(*	复数回答可)(該当する網掛けに〇を.	入れてください。)				その他・意見
どのように活用できると思いますか	人脈活用	情報交換		個々のレベルアップ		
	第 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	- 0 - 1 - 0 - 0 - 0 - 0 - 1 - 1 - 1 - 1		********		
6. その他意見(今回のグループ枠は建	梁・エ不・退路の分野別としています。	、この点についての感想も是非こ	- 記入く	たさい) -		
※ 10年後の自分へのメッセージ(回答	答任意)					

会社名 :

1. テーマ、進め方、発表方法について(該当する網掛けに〇を入れてください。)

(1)テーマに関して	適当・良かった	17	まあまあであった	5	不満・改善を要する	0	22
(2)進め方に関して	適当・良かった	12	まあまあであった	10	不満・改善を要する	0	22
(3)発表方法に関して (パワーポイントの使用廃止を含め)	適当・良かった	18	まあまあであった	2	不満・改善を要する	2	22
(4)他の班・メンバー変更による交 流について(2回シャッフル)	現行より時間を延長すべき	1	現行時間が適当である	20	討議内容が浅くなるので、 現行より時間を短縮すべき	1	22

2. 参加者、場所、期間について(該当する網掛けに〇を入れてください。)

(1)参加者に関して	適当・良かった	20	まあまあであった	2	不満・改善を要する	0	22
(2)場所に関して	適当・良かった	18	まあまあであった	2	不満・改善を要する	2	22
(3)期間に関して	内容充実を図り、3日間と すべき	1	現行のままとする	20	一日とし、宿泊をなくすべき	1	22
(4)集合時刻に関して	9:00集合が望ましい (前回までの時間)	1	10:30集合 (今回設定の時間)	16	13:00集合が望ましい	5	22
(た)吐物1-881 ナ				月			
(5)時期に関して				曜日			

3. 参加して(該当する網掛けに〇を入れてください。)

(1)感想	有意義であった	21	まあまあであった	1	不満・改善を要する	0	22
(2)この会の参加前後で、業務へ の取組意識は変化しましたか	大いに変化した	9	実感はないが、どこか変 わった。	13	まったく変わらない	0	22
(3)この会で得たことを社内で展 開しますか	したい	20	するつもりはない	2	できない	0	22

4. 講演会について(該当する網掛けに〇を入れてください。)

感想·希望等	有意義であった	18	まあまあであった	2	不満・改善を要する	2	22	
--------	---------	----	----------	---	-----------	---	----	--

5. 今回の意見交換会から得たものを(複数回答可)(該当する網掛けに〇を入れてください。)

どのように活用できると思います	人脈活用	16	情報交換	17	個々のレベルアップ	8	41
か							

各 位

一般社団法人日本建設機械施工協会 建設業部会 部会長 佐藤康博

第20回 機電技術者意見交換会および講演会のご案内

標記意見交換会および講演会を下記の要領により開催致します。 ご多忙の折、参加者を選出し、期日までにお申し込み頂きますようお願い申し上げます。

記

1) 開催趣旨、実施要領(詳細は、参加申込者に別途送付します)

開催日 : 10月13日(木)~10月14日(金)

討 議 : テーマ「魅力ある建設業にするために、機電技術者が今果す役割について」

場 所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加資格: 従来は、会員会社のみでしたが、昨年から会員会社のグループ会社職員で

あっても、施工経験が主体であれば参加可能としました。 ※グループ企業への案内は、各社御担当からお願いします。

参加費 : 会 員:18,000円

非会員: 20,000 円 (宿泊・食事代含む)

協会会員会社と非会員会社で参加費は異なります。 当日、協会発行領収書と引換に徴収させて頂きます。

2) 講演会

演 題 : 『i-Construction について』

講 師 :近藤 弘嗣 様(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 施工安全

企画室 課長補佐)

演 題 :『A4CSEL (クワッドアクセル生産システム) とは』

講 師 :三浦 悟 様(㈱鹿島建設 プリンシパル リサーチャー)

3) 意見交換会参加者の選出基準

機電技術者 (概ね 30歳~40歳前後)

4) 参加者の自己アピールシート

参加者には、自己アピールシートを作成して頂き、当日はこれにより自己紹介をして頂きます。自己アピールシートは、パワーポイントによる作成とします。作成要領等は、後日(受付締切後に)担当幹事より参加者宛に配信します。

概略は以下のような内容(構成)での作成となりますが、発表時間は一人3分で、時間厳守としますので、この時間に見合うように作成して下さい。

- ① 氏名、所属会社、略歴等
- ② 現在の仕事
- ③ 自己アピール(仕事以外で)
- ④ テーマに関連した事項で話したいこと

自己アピールシートは、申込受付次第、事務局からファイルをメールでお送りいたします。

5) 概略スケジュール (案)

10:30~11:00 参加者受付

11:00~11:30 オリエンテーション

 $12:30\sim13:45$ 自己紹介(自己アピールシートにより 1 人/ 3 分)

14:00~15:30 発表基礎グループ別討議 Ver.1

 $15:30\sim17:00$ シャッフルグループ討議 Ver.1(1時間半だけメンバーをシ

ャッフル)

17:30~19:00 全体懇親会

19:00~グループ別懇親会

[2日目]

 $8:30\sim10:00$ グループ討議 Ver.2 (1時間半だけメンバーをシャッフル)

10:00~12:00 発表基礎グループ別討議 Ver.1 & 討議成果のまとめ

13:00~14:00 講演会(2講演)

14:15~16:50 討議成果発表会 & 講評

16:50~17:00 閉会

6) その他

一昨年から、二日目の成果発表時までにパワーポイントに纏める方法から、各部屋の 黒板なりホワイトボードに討議経過・結果を書いていただき、1日目と二日目の途中経 過段階・終了時等に、各班参加者でホワイトボードを撮影していただき、討議結果は その写真を使って発表して頂くようになります。種類は問いませんが、二日目の発表 前に事務局のメールに送信可能な端末か、USB接続でデータをいただける撮影端末 の準備をお願いいたします。(アドレスは、次回の資料で御知らせいたします。)

また後日、第20回機電技術者意見交換会の報告書用に、グループ報告書のテンプレートを写真と共に送付するのでメンバー内で纏めて報告書として提出して頂きます。

※本研修はCPDSプログラム認定講習会です。

7)過去の開催実績等

昨年度までの「機電技術者意見交換会」開催実績は、一般社団法人日本建設機械施工協会のホームページ (http://www.jcmanet.or.jp/?page_id=117) で閲覧できます。

8)参加の申込

参加希望者は、次ページの申込書に所定事項を記入(必須事項は必ず記入)の上、 9月9日(金)までに、機械施工協会事務局あてに、参加希望者本人のメールにて、ワードのままご返信下さい。

> 【事務局】一般社団法人日本建設機械施工協会 業務部 主任 松本

> > TEL:03-3433-1501 FAX: 03-3432-0289

第20回機電技術者意見交換会 参加申込書

※参加者の情報を、下記の欄にご記入の上、事務局宛ご返信下さい。 申込〆切: 9月9日(金)

(20)					
氏 名 (**)					
生年月日 (※)	昭和/平成	年	月	日	
年 齢 (*)					
会社名 ^(*)					
所属部署 ^(*)					
主たる職歴 ^(*) (2~3例)					
住 所 ^(*)	(〒 −)				
電 話(※)		FAX	(*)		
E-mail (**)			·		
入社年 (※)	昭和/平成	年入社	勤続	年	
CPDS		必要	•	不要	
その他の意見					

matsumoto@jcmanet.or.jp

2016年 第20回機電技術者意見交換会スケジュール表

第1日(10月13日 木曜日)	場所	時刻	第2日(10月14日 金曜日)	場所
			(7:00から営業)	
		8:00	朝食:レストラン「ふじ」	
				センター棟
			委員·事務局集合待機場所(~12:00) 8:30~9:30	416号室
			8:30~9:30 シャッフルグループ討議	シャッフル21班:408号室
		9:00	(シャッフルver2:同世代)	シャッフル 22班:410号室
			グループ内コミュニケーション	シャッフル23班:411号室 シャッフル24班:412号室
			9:30~12:00	シャッフル24班:412号室 シャッフル25班:413号室
		10:00		7(77W@031:41049 <u>1</u>
		10.00	発表グループ討議(班別ver1:工種毎)	
			元なノルーノ引張(処別VOII.工程時)	発表1班 :408号室
10:30~11:00 (全員)	センター棟			発表2班 :410号室
参加者受付(受付、参加費集金)	416 <mark>号</mark> 室	11:00	成果のまとめ、発表準備	発表3班 :411号室
11:00~11:30 (全員)				発表4班 :412号室
オリエンテーション(趣旨説明、班編成等) 				発表5班 :413号室
昼食:レストラン「ふじ」		12:00	Constant Salvation	A D 75.51
12:30~13:45 (全員)			(11:30から営業)	全員移動 ■
12:30~13:45(主員)			昼食:レストラン「ふじ」	
参加者自己紹介		10.00		
(自己アピールシートを使用して) 3分/人×25名=75分		13:00	10 00 11 00 ## ' 7/00 1 10\ / \	・ センター棟
0337 547 20 21 7033			13:00~14:00 講演(30min*2)(全員) ①『i-Constructionについて』(国土交通省)	416号室
			②『A4CSEL(クワッドアクセル生産システ	l i
	センター棟	14:00	ム)とは』(鹿島建設)	
14:00~15:30	発表1班 :408号室			
発表グループ討議(班別 ver1 : 工種毎)	発表2班 :410号室		14:10~16:40 (全員)	
元気フルーン 町成 (加加)(10011.11年間)	発表3班 :411号室		 グル―プ討議成果発表会	
グループ内コミュニケーション	発表4班 :412号室	15:00		
	発表5班 :413号室		グループ発表・質疑応答 (班発表10分+個人発表2分/人	
15: 20=:17:00			+質疑5分)/班	
15:30~17:00	シャッフル 11班:408号室	4.5.5.	持ち時間 : 25分/班	
シャッフルグループ討議	シャッフル①2班:410号室 シャッフル①3班:411号室	16:00		
(シャッフルver1:平均年齢)	シャッフル 13班:411号至			
グループ内コミュニケーション	シャッフル 15班:413号室		16:40~17:00	'
		17:00	全体討議、講評	
17:00~17:30	☆☆☆☆	17.00	解散	▼
各自、宿泊施設に移動し、宿泊の準備	宿泊D棟 ∎			
17:30~19:00 (全員) ※5分前に集合	#			
< 懇親会 > カルチャー棟 2F	カルチャー棟2F	18:00		
レストラン「とき」(30~35名)	レストラン「とき」			
参加者より乾杯 ※参加者のつなん等				
※参加者のコメント等 司会:●●副幹事長				
		19:00		
グループ別懇親会へ				

第20回機電技術者意見交換会参加 基本班(発表班)工種別

No	班	氏 名	所属	年齢	勤務 年数	平均 年齢	宿泊室	討議部屋 10/13(14:00~15:30) 10/14(10:00~12:00)
1		内村 裕之	(株)大林組 機械部技術第一課	34	12年		D-517	13/11/(1886
2	4	亀井 寛功	㈱奥村組 東北支店 豊地SFT工事所	30	5年	29	D-518	セミナー
3	1	富井 啓輔	(株安藤·間 土木事業本部機電部	28	3年	29	D-519	408
4		野口 時男	鉄建建設㈱ 東北支店 にしごうトンネル作業所	25	2年		D-520	
5		金木 洵太朗	大成建設㈱ 土木本部機械部機械技術室	31	6年		D-521	
6	2	千田 翔互	西松建設㈱ 北日本支社札幌支店 新幹線後志出張所	33	11年	30	D-522	セミナー
7	2	松村 勇希	大豊建設㈱ 東京支店土木部機電課	27	6年	30	D-523	410
8		八木 浩二朗	(株)大本組 土木部機電課	28	4年		D-524	
9		草柳 孝義	東洋建設㈱ 土木事業本部機械部	24	3年		D-525	
10	3	野田 哲義	五洋建設㈱ 土木部門土木本部船舶機械部	33	8年	35	D-526	セミナー
11		吉田 一郎	㈱フジタ 建設本部土木エンジニアリングセンター機械部	50	26年	00	D-527	411
12		渡辺 和宏	東急建設㈱ 土木本部機械技術部	32	8年		D-528	
13		海老原 浩樹	SMCテック(株)	33	10年		D-600	
14		近藤 泰	鹿島建設㈱ 機械部機械技術センター	40	21年		D-601	
15	4	田原 修	(株)竹中工務店 大阪本店 技術部機械·電気G	41	21年	36	D-602	セミナー 412
16		坪田 幸博	㈱鴻池組 東京本店 機材センター技術課	40	17年		D-603	
17		藤原 俊悟	前田建設工業㈱ 東京建築支店 西五反田三丁目M作業所	27	5年		D-604	
18		立花 洋平	㈱NIPPO 中部支店 舗装事業部生産機械グループ	39	18年		D-605	
19		田ノ上 隼人	東亜道路工業㈱ 工務本部芝山機械センター	31	13年		D-606	
20	5	野崎 雄人	日本道路㈱ 生産技術本部機械部機械センター	32	8年	35	D-607	セミナー 413
21		横出 喜靖	大林道路㈱ 本店 機械部機械センター	32	13年		D-608	
22		横山 鉄哉	鹿島道路㈱ 中部支店 工事部機械課	41	18年		D-609	

第20回機電技術者意見交換会 シャッフル1回目(重複なし)平均年齢

No	班	氏 名	所 属	年齢	勤務 年数	平均 年齢	10/13討議部屋 15∶30-17∶00	Ver1班 基本·発表時
1		千田 翔互	西松建設(株) 北日本支社札幌支店 新幹線後志出張所	33	11年			2
2	1	野崎 雄人	日本道路(株) 生産技術本部機械部機械センター	32	8年	36	セミナー	5
3	'	藤原 俊悟	前田建設工業㈱ 東京建築支店 西五反田三丁目M作業所	27	5年	30	408	4
4		吉田 一郎	(株)フジタ 建設本部土木エンジニアリングセンター機械部	50	26年			3
5		内村 裕之	(株)大林組 機械部技術第一課	34	12年			1
6	2	坪田 幸博	(株)鴻池組 東京本店 機材センター技術課	40	17年	35	セミナー	4
7	2	横出 喜靖	大林道路㈱ 本店 機械部機械センター	32	13年	00	410	5
8		渡辺 和宏	東急建設㈱ 土木本部機械技術部	32	8年			3
9		海老原 浩樹	SMCテック(株)	33	10年			4
10	3	富井 啓輔	(株)安藤·間 土木事業本部機電部	28	3年	33	セミナー	1
11		八木 浩二朗	(株)大本組 土木部機電課	28	4年		411	2
12		横山 鉄哉	鹿島道路㈱ 中部支店 工事部機械課	41	18年			5
13		草柳 孝義	東洋建設㈱ 土木事業本部機械部	24	3年			3
14		近藤 泰	鹿島建設㈱ 機械部機械技術センター	40	21年			4
15	4	立花 洋平	㈱NIPPO 中部支店 舗装事業部生産機械グループ	39	18年	31	セミナー 412	5
16		野口 時男	鉄建建設㈱ 東北支店 にしごうトンネル作業所	25	2年			1
17		松村 勇希	大豊建設㈱ 東京支店土木部機電課	27	6年			2
18		金木 洵太朗	大成建設(株) 土木本部機械部機械技術室	31	6年			2
19		亀井 寛功	㈱奥村組 東北支店 豊地SFT工事所	30	5年			1
20	5	田ノ上 隼人	東亜道路工業(株) 工務本部芝山機械センター	31	13年	33	セミナー 413	5
21		田原 修	㈱竹中工務店 大阪本店 技術部機械・電気G	41	21年			4
22		野田 哲義	五洋建設㈱ 土木部門土木本部船舶機械部	33	8年			3

第20回機電技術者意見交換会 シャッフル2回目(世代別)

No	班	氏 名	所属	年齢	勤務 年数	平均 年齢	10/14討議部屋 8:30-9:30	Ver1班 基本·発表時	Ver2班 平均年齢
1		草柳 孝義	東洋建設㈱土木事業本部機械部	24	3年			3	4
2		野口 時男	鉄建建設㈱ 東北支店 にしごうトンネル作業所	25	2年	0.6	セミナー	1	4
3	1	藤原 俊悟	前田建設工業㈱ 東京建築支店 西五反田三丁目M作業所	27	5年	26	408	4	1
4		八木 浩二朗	(株)大本組 土木部機電課	28	4年			2	3
5		松村 勇希	大豊建設(株) 東京支店土木部機電課	27	6年			2	4
6	2	富井 啓輔	(株安藤·間 土木事業本部機電部	28	3年	29	セミナー	1	3
7	2	亀井 寛功	㈱奥村組 東北支店 豊地SFT工事所	30	5年	29	410	1	5
8		^{たで よしはる} 横出 喜靖	大林道路㈱ 本店 機械部機械センター	32	13年			5	2
9		田ノ上 隼人	東亜道路工業㈱ 工務本部芝山機械センター	31	13年			5	5
10	3	金木 洵太朗	大成建設㈱ 土木本部機械部機械技術室	31	6年	32	セミナー	2	5
11	3	野崎 雄人	日本道路㈱ 生産技術本部機械部機械センター	32	8年	- 52	411	5	1
12		渡辺 和宏	東急建設㈱ 土木本部機械技術部	32	8年			3	2
13		海老原 浩樹	SMCテック(株)	33	10年			4	3
14		千田 翔互	西松建設㈱ 北日本支社札幌支店 新幹線後志出張所	33	11年			2	1
15	4	野田 哲義	五洋建設㈱ 土木部門土木本部船舶機械部	33	8年	36	セミナー 412	3	5
16		立花 洋平	㈱NIPPO 中部支店 舗装事業部生産機械グループ	39	18年			5	5
17		坪田 幸博	(株)鴻池組 東京本店 機材センター技術課	40	17年			4	2
18		内村 裕之	(㈱大林組 機械部技術第一課	34	12年			1	2
19		近藤 泰	鹿島建設㈱ 機械部機械技術センター	40	21年			4	4
20	5	田原 修	㈱竹中工務店 大阪本店 技術部機械・電気G	41	21年	41	1 セミナー 413	4	5
21		横山 鉄哉	鹿島道路㈱ 中部支店 工事部機械課	41	18年			5	3
22		吉田 一郎	(㈱フジタ 建設本部土木エンシ [*] ニアリンク [*] センター機械部	50	26年			3	1

3) 実施状況写真

① 開催場所および宿泊棟



オリンピックセンター(センター棟)



宿泊棟 (D棟)

② 開会挨拶およびオリエンテーション



佐藤部会長挨拶



オリエンテーション

③ 自己紹介



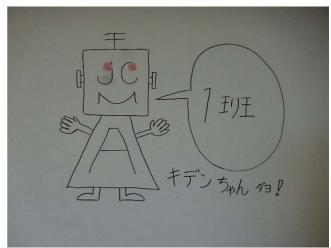






④ グループ討議





1 班





2 班 3 班





4 班 5 班

⑤ 懇親会





⑤ 講演会



「i-Construction について」: 近藤弘嗣 様



「クワッドアクセル」: 三浦悟 様

⑥ 成果発表



1 班



2 班



3 班



4 班



5 班

⑦ 講 評







⑧ 閉会挨拶



森田幹事長挨拶

4)新聞掲載記事

本道路▽フジタ▽前田建設▽三井

建設▽匹松建設▽NIPPO▽日

日刊建設通信新聞(10月17日)

2日目にグループごとの討議

成果を発表した。参加者から

「同じ悩みを持つ仲間がい

13、14の両日、東京都渋谷区 業部会(佐藤康博部会長)は CMA、辻靖三会長)の建設 の国立オリンピック記念青少 日本建設機械施工協会(J 技術者の役割議論 JCMAが意見交換会

年総合センターで第20回機電 技術者意見交換会を開いた。 に意見交換した。 れてテーマに沿って討議し、 初日は、5グループに分か

|会員企業22社から20―40代前 や技術開発などについて活発 力ある建設業にするために機 いて」をテーマに、業務内容 電技術者が今果たす役割につ 後の技術者22人が参加。「魅 | 設▽大豊建設▽竹中工務店▽鉄建 ▽東亜道路工業▽東急建設▽東洋

されている中、将来の建設技 建設業への就業者減少が危惧 JCMA建設業部会では、

り (50音順) 道路▽鴻池組▽五洋建設▽大成建 路▽大本組▽奥村組▽鹿島▽鹿島 開いている。 心の現場見学会も年2回程度 教育に注力しており、若手中 術を担う機電技術者の交流や ▽安藤ハザマ▽大林組▽大林道 意見交換会出席企業は次のとお

日刊建設工業新聞(10月17日)

機電技術者の役割 JCMAが意見交換会 重要性を再認識

は13、14日の2日間、東 ピック記念青少年総合セ 京都渋谷区の国立オリン ンターで第20回「機電技一容や技術開発、悩み事な (JCMA、辻靖三会長) 日本建設機械施工協会 者が5班に分かれ業務内 いう。 する機会はほかにないと

20回目の今回は、参加

分野の垣根を越えて交流 洋土木、建築、道路など を開いている。土木、海 997年から意見交換会 流・育成を目的として1 会では、機電技術者の交 そこでJCMA建設業部 備の管理・開発などを担 の社員が多く、機械や設 に発表を行った。 つ機電技術者は少ない。 建設会社は土木と建築

22社と非会員会社1社 術者意見交換会」を開い に分かれて議論し、 ついて」をテーマに5班 技術者が今果たす役割に 建設業にするために機電 者)が参加。 業部会の会員53社のうち た=写真。JCMA建設 (20~40代の機電技術 「魅力ある 最後

について」、鹿島の三浦悟氏

(アイ・コンストラクション)

が A4CSEL (クワッド

アクセル生産システム)とは

をテーマにそれぞれ特別講演

政策局の近藤弘嗣氏が「i

者の役割や重要性を再認識し ることを実感した「機電技術

た」などの感想が寄せられた。

2日目には国土交通省総合

Construction

ructionについ 要性を再認識した」など 目には「i-Const の感想が上がった。2日 交わした。参加者からは 2 どについて活発に意見を 「機電技術者の役割や重 (国土交通省総合政

策局)、「A4CSEL

建設▽竹中工務店▽鉄建 ク(非会員)―の計23社。 井住友建設▽SMCテッ ▽フジタ▽前田建設▽ 設▽東洋建設▽西松建設 ザマ▽大林組▽大林道路 も行われた。 をテーマにした特別講演 システム)とは」(鹿島) ▽NIPPO▽日本道路 ▽東亜道路工業▽東急建 洋建設▽大成建設▽大豊 ▽鹿島道路▽鴻池組▽五 ▽大本組▽奥村組▽鹿島 (クワッドアクセル生産 参加企業は、▽安藤ハ

36